

シンドローム	ウロボロス		ワークス	UGN支部長B	カヴァー	UGN支部長
	ソラリス					
オプショナル			年齢	30歳(22歳+8年)	性別	女
覚醒	感染	衝動	恐怖		初期侵食率	34 %
出自	義理の両親	経験	被害者		邂逅	恩人

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		R C			交渉		
回避	1		知覚	1		意志	2		調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

[illegible]

■ボイスサンプル・概要

「おはようございます、今日もとても良いお天気ですね」

「私は、この支部で、大切なものをずっと護り続けると決めておりますの」

花水木支部の支部長。戦闘支援およびカウンセリング担当。この支部を訪れる様々な人に対し接する事で、少しでも心のケアが出来ればと活動している。

■覚醒

元は一般家庭だったが、両親は早くに亡くなり、親戚に姉妹でお世話になっていた。家族関係は良好ではあれど、彼女にとっての本当に頼れる存在は姉一人であった。（姉妹仲は当然良好）

姉妹揃って休日に出掛けていたある日、ジャーム（“輪廻の獣”）に襲われ覚醒。この時にウロボロスに感染するが、当時はまだウロボロスシンドロームの概念が無いため、ブラム＝スーカと誤認している。（《雲散霧消》も本能的には《血霧の盾》みたいな感じで使ってる）

姉妹共々感染しUGNにお世話になり、その時にUGNエージェントになろうと二人で話して決めた。またこの時PL3に何らかのお世話になっており、配属先もPL3への恩返しの意味も込みで、花水木支部に生まれていた。

■パーソナル

大学では心理学を専攻し、エージェントになる前はカウンセラーだった。覚醒してからはその特性が強くなり、感受性1000倍になった。

姉至上主義というが、重度のシスコ。病みも若干あるが、基本は穏やかな保健室のお姉さんみたいなイメージ。その気になれば自分に《狂戦士》をかけてブン殴るくらいのが概がある。背がかなり高いため、第一印象で姉妹を逆と誤認されることがしばしばある。

■エフェクトイメージ

自分の血液から化学薬品を作り、それを散布することでバフしたり被ダメ減したりする。

■想定シチュ

・大切な人を目の前で実際に自分が初めて喪失した。（8歳年上の姉。ちょうどシナリオ3で同い年になってしまった）

・カウンセラーとして、Dロイスとして、人の痛みを“分かった気になっていた”。本当は何も分かっていなかった。

■第3話での変更点

花水木支部の支部長になりました。